

令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	31	学 校 名	清水東高等学校	校 長 名	井島 秀樹
------	----	-------	---------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	いじめの根絶	・いじめに対するトラブルの事前防止 ・いじめへの対処の確実な実施 ・ネットに関係するトラブル：0件 ・「誰に対しても相手の気持ちを大切に接している」と答える生徒の割合：95%	・いじめアンケートを実施した。（2回目は2月実施） ・スマートフォン講座を実施した。 ・96.2%	B	●いじめ案件1件(昨年度から継続) ○ネットに関するトラブル0件 ●授業や学校アンケートなどで、スマートフォンや1人1台端末の使用機会が増えている中、今のところ不適切な状況はないが、今後も引き続き生徒の様子を観察し使用方法について検討していく。
	授業中、部活動中、登下校中(特に自転車)の事故防止	・授業中の事故0件 ・登下校時の自転車事故件数2割減 ・職員対象のAED講習会の実施 ・校内活動中に熱中症重症者を出さない。 ・「保健だより」毎月発行	・設備や環境整備の不備による事故は0件であった。 ・今年度自転車事故件数7件（昨年度12件） ・職員対象の、救急隊による「救急講習」を実施した。 ・体育科と連携して、体育での熱中症防止を呼び掛け、校内活動中の熱中症重症者の発生を防止した。 ・保健だよりを毎月発行した。	A	○自転車交通事故は昨年度よりも5件減少。 ●交通事故件数減を目指すだけでなく、交通ルールの順守とマナーに対して徹底させる。 ○熱中症重症者が出ることはなかった。継続的に出さない対応をしていく。
	防災対策の充実	・Cラーニング、Google クラスルームによる防災連絡（緊急連絡）訓練の実施 ・防災訓練を年2回実施	・予定通り実施	B	○訓練とは別に防災計画に沿って各職員の役割確認と備品確認を実施した。 ●避難所運営を自分ごとと捉えられる取組について検討していく。
	学校施設の環境保全	・「ごみの分別・削減・環境を守る行動をしている」と答える生徒の割合：85%	・92%	B	○環境に配慮した行動がとれている。 ●美化委員による校内美化のための点検や呼びかけを継続して実施していく。 ○体育館に可能な限り泥を入れないために、階段から上を土足禁止にすることができた。
	感染症の予防	・「毎日の健康観察や手洗い・手指消毒・換気を行っている」と答える生徒の割合：85%	1年88% 2年89% 3年94%	A	○自分ごととしての認識が高い。

様式第3号

イ	BYODによるICTを活用した授業の実践	・授業におけるICT機器活用：100% ・教育用アプリ（ジャパンナレッジスクール、ロイロノートなど）の活用：90%	・「授業や生徒の学習でICT機器を有効に活用している」93.6%	A	○90%を超える数値で定着したことが伺える。 ○ロイロノートを中心に有効に活用されている。
	HP、広報活動による本校にふさわしい優秀な生徒募集の実現	・探究活動を中心に教務部記事を月1回のペースで掲載する。	・月1回以上のペースで掲載した	B	○定期的に更新 ●部活動ごとで更新頻度に差がある。 ●新HP移行作業に遅れがあった。
ウ	主体的、対話的で深い学び、アクティブラーニングの推進	・全教員が講義形式に依らない授業展開の工夫を実践する。（各自学期に1回以上） ・生徒による授業評価を年2回実施 ・年間2回以上、他の教員の授業を見学した教員の割合：80%	・授業評価を実施し、授業改善に繋がった。 ・授業評価2回実施 ・74.5%	B	○生徒の授業満足度は9割以上と高い。 ○授業評価はGoogleフォームを使い、効率的に実施できた。 ○授業公開（年2回）や指導主事訪問などの機会を生かすことができた。
	4校合同研修会の実施	・参加教員により、研修内容を各教科・分掌で共有する。	・各校の研修計画について全教員に連絡し、情報を共有した。	B	●本年度より合同研修会を行わない形式に変更された。各校の研修計画を早期に連絡できれば参加の機会も増えるのではないかな。
エ	SSH新制度の研究	・年間の指導計画と評価法を完成させる。 ・本校のSSHの在り方、方針を立案する。	・3年間を通した探究プログラムを完成させることができた。 ・認定校校としての本校SSHの在り方、方針を検討している。	B	○令和4年度の新教育課程の実施にあわせて開発してきた本校独自の探究プログラム「清高探究メソッド」を完成させることができた。 ●認定校校として、持続可能なSSH活動のために各事業について今後も継続して検討していく。 ●改善点などを検討する時期となる。
	SSH活動の充実	・「課題研究を中心としたSSH活動は有意義である」と答える生徒の割合：80% ・不思議実験講座受講後、「理科がより好きになった」中学生の回答：3.5点（4点中） ・国立遺伝学研究所訪問（実施できない場合は代替行事）は有意義だった」と答える生徒の割合：80%	・90.1%（【参考】理数科：94.6% 普通科：89.4%） ・4点（7月。29名対象）、3.7点（12月。23名対象） ・89.7%	A	○理数科・普通科ともに課題研究を中心としたSSH活動を実施することができた。 ○SSH全国大会での優秀ポスター賞、SSH東海フェスタでの口頭発表優秀賞等、多くのコンテストで入賞することができた。 ○SSH事業における年度当初の数値目標をクリアすることができた。 ○遺伝学研究所訪問について、講義・施設見学等、すべての項目で高い満足度が得られた。 ○SSHの活動を、県の事業等を活用して継続することができた。
オ	欠席、遅刻、早退の減少	・欠席数が過年度平均の8割以下となることを目指す。	・82.1%	B	○概ね数値目標は達成できた。 ●不登校傾向の生徒を減らす方策が必要である。
	メンタル問題による不登校、転退学の減少	・「学校生活に満足している」と答える生徒の割合：80%	・92%	B	○グループエンカウターの実施により、入学当初に人間関係を構築するための貴重な機会を与えることができた。 ●相談室の利用者増加のため、十分な対応ができなくなっている。対応等の改善を考える必要性を感じている。

様式第 3 号

	部活動の充実、 成績の向上	・全国大会 5 部活、県大会 10 部活出場 ・「部活動が充実している」と答える生徒の割合：75%	・全国大会出場 5 部活（音楽・囲碁・新聞・自然科学部化学班・英語）、東海大会出場 5 部活（陸上・男子ソフトテニス・男子ハンドボール・ヨット・ウェイトリフティング）その他県大会以上多数。 ・1 年 91% 2 年 90% 3 年 95%	A	○限られた制約の中で充実した活動ができた。 ○全国大会、東海大会等に出場する活躍をした部活動が多数あった。 ○文武両道をめざす本校として運動部の復活の兆しが見えてきている。
カ	基礎学力の定着 (校内学力試験の利用)	・今年度の評価結果について分析する。 ・テスト返却 1 週間後の個票返却 ・「授業が分かりやすい」と答える生徒の割合：85% ・「指導のレベルに満足している」と答える生徒の割合：90%	・学習評価の傾向を過年度と比較した。概ね例年通りの結果となった。 ・1 年 84% 2 年 86% 3 年 94% ・1 年 92% 2 年 92% 3 年 93%	A	○調査書の成績分布は例年と同程度であった。 ○土曜講座については生徒や職員の多忙化解消のために適切な回数実施したと考えられる。 ●引き続き次年度以降も土曜講座の実施回数や実施の是非について検討していく必要がある。
	個に合った適切な進路指導、進路面談の充実	・進路に関する保護者会を実施。目標参加率：80% ・オープンキャンパスへの 2 年次までの参加：90% ・「進路実現に向けての 1 年間の自身の取組に満足している」と答える生徒の割合：70% ・「新旧担任連絡会や校内進路検討会が進路指導に役立った」と答える教員の割合：80% ・「進路講演会が生徒や保護者の進路理解に役立った」と答える教員の割合：80% ・「プロフェッショナルと語る会は有意義だった」と答える生徒の割合：80% ・「将来の進路について考えている」と答える生徒の割合：80% ・「大学・研究所等の訪問は意義があった」と答える生徒の割合：75%	・60～70%程度 ・90%超 ・2 年 55% 3 年 86% ・83% ・100% ・94.8% ・89% ・90%	B	○進路に関する保護者会については、欠席者へのフォローなどを行った。 ●実施時期が高校総体の大会日程と重なる部活があり、応援に行きたい保護者が欠席するケースがある。教員も大会引率のため欠席しなければならないこともある。 ●「進路実現に向けての 1 年間の自身の取組に満足している」と答える生徒の割合については、受験生である 3 年生については満足度が高く成果が出たが、2 年生は満足度が目標に届かなかった。進路部や学年部として時期に応じて適切な仕掛けをしていく必要があるようにも考えられる。 ○研究内容を詳しく学び、研究環境に触れたり実験などを体験したりすることによって、希望する進路への意識を高めることができた。 ○オープンキャンパスへの参加率は近年再び高まっている。BYOD 端末を利用して大学や学問系統を調べることと、実際に大学に出向くことを引き続き促す指導を実践していきたい。 ○4 月の 3 年生保護者会後のアンケートでは良好な回答がほとんどであった。

様式第3号

	個の実力にあった文理選択（1年生）	・「学校で発行された『進路ノート』、『進学資料＆合格体験記』、『最新大学情報』は進路を考えるうえで参考になった」と答える生徒の割合：75% ・不本意な文理選択となる生徒を出さない指導を行う。	・90% ・文理選択について複数回の面談を実施	A	○学校で発行された進路関係の資料を読んだり、オープンキャンパスに参加したりして、進路について具体的に考え始めた生徒がいる。 ○文理選択の予備調査において志望大学や志望分野との整合性を生徒に確認した上で、仮登録を行った。そのため、本登録でほとんど変更が生じなかった。
キ	生徒会活動、ボランティア活動の充実	・「学校祭に満足した」と答える生徒の割合：80% ・各部活動で1回以上ボランティア活動を実施した割合：80%	・92.4% ・ボランティア活動を実施した割合：46%	B	○学校行事の企画運営については、検討の余地はあるが、生徒の満足度は高い。 ●生徒会を中心にボランティア活動への参加呼びかけをしていく。
	研究旅行の充実	・「充実した研究旅行になった」と答える生徒の割合：80%	・97.5%	A	○海外研究旅行復活。実施後の課題の継承 ●理数科シンガポールでの大学・研究所訪問が中止。代替案の検討必要である。
ク	休暇取得促進日の設定	・休暇取得促進日に休暇を取得できる職員の割合：90%	・87%	B	●夏季休業全体での休暇取得は可能であるが、時期を限定するのは目標として適切でない。
	業務の見直し、スクラップの推進	・印刷紙の使用量1割減を目指す。 ・19:30以降残留する職員が減少するように業務の割り振りを改善する。	・5%程度削減 ・完全退庁時刻20:00を設定。20:00以降残留の場合、報告書の提出	B	○Google ClassroomやC-Learningでの連絡によりペーパーレス推進 ●印刷紙の使用量削減の方策を検討していく。 ○報告書の提出義務付けから、残留者が激減した。
ケ	事務室運営の効率化	・各事務職員が1件以上の業務改善を提案	・一人一人が日々の業務を工夫・改善し、事務を執行した。	B	●総務事務の集約化と事務職員の校務運営への参画に向け、更なる業務改善を進めたい。
	法令遵守の徹底	・現金の適正な管理のために支払い、決算報告等はわかりやすい文書の作成に努め残金の迅速な返金処理等を行う。 ・個人情報の適正な保管による紛失及び漏洩事故ゼロ	・学校徴収金等の事務処理は、異動生徒への返金及び通知を含め、適正に実施できた。 ・現金の管理及び支払の管理は、適正に実施できた。 ・マイナンバー等の個人情報、適正に管理できた。	A	○県が定めた「学校徴収金等事務処理基準」に基づいた処理ができている。 ●決算処理や進級、卒業等に伴う返金処理について、より迅速に行いたい。
	安全安心な教育環境の維持	・月2回以上の施設点検と法令点検指摘箇所のすみやかな改修 ・的確な移転計画資料を作成する。 ・計画的な備品等の購入	・定期点検や法令点検での指摘箇所は、安全性を考慮した優先順位により改修を進めた。 ・関係機関との調整を図るとともに必要な情報を周知し、校舎解体に係る工事を無事完了できた。 ・限られた予算の中ではあるが、必要な物品の整備を行うことができた。	A	○生徒が安全安心に授業等を受けられる教育環境を維持できた。 ●予算は限られるが、生徒がより快適に授業等を受けられるよう、教育環境の充実を図りたい。